

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学特殊研究 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP7236
2. 授業担当教員	鶴 光代		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	臨床心理学の主要なアプローチについて学び、その背景となる考え方を学ぶ。また、臨床心理学の各分野での問題について理解する。各分野・アプローチでの臨床心理学的研究方法や、基礎研究とのつながりについて考察する。講義は、研究論文の購読をもとに展開する。		
8. 学習目標	1. 将来、大学、及び、大学院の研究者、指導者になるために心臨床心理学における研究ができて、指導できるようにするため、この分野での幅広い知識を習得して、考え方を理解する。 2. 臨床心理学上の問題について、基礎研究と臨床の繋がりを理解し、研究し実践できる力量を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 内外の文献を読んで、研究発表を行い、それについて一緒に討議研究する。 2. 各アプローチや分野について、概要をまとめ、問題点についてレポートとして、まとめる。 3. 臨床心理学における臨床心理学的援助と研究のつながりについてレポートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 特になし。 【参考書】 各種心理療法、カウンセリング法についての研究書を用いる。		
11. 成績評価の方法	研究発表 40% レポート 50% 出席・討議内容 10%		
12. 受講生への メッセージ	1. 大学、大学院の教員となり、研究指導ができるように実力をつける。 2. 1 年間に 2 本以上の研究論文を作成し、学会で発表する。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	1 年間の研究方針を発表し、各自の発表テーマを決める。		
【学習の目標】	臨床心理学について、自らのテーマを明確にする。		
【学習の内容】	臨床心理学における歴史の変遷を理解し、各アプローチの違いを把握する。		
【キーワード】	エビデンスベースド、ナラティブベースド、臨床心理学のアカウンタビリティ		
【学習の課題】	大学院に進学した目的を再認識してから、講義に臨むように		
【参考文献】	特になし。		
【学習する上での留意点】	積極的に討議に参加すること		
2～4. テーマ	精神力動理論からのアプローチ		
【学習の目標】	精神力動理論における研究の最近動向を知る。		
【学習の内容】	フロイトに始まる精神分析の歴史をたどる。また、母子関係理論を中心に現代精神分析について学ぶ。		
【キーワード】	関係性、こころの内面、転移・逆転移		
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。		
【参考文献】	その都度提示する。		
【学習する上での留意点】	学部・修士課程での学習を復習して、基本的な用語について理解した上で受講すること。		
5～7. テーマ	人間性心理学理論からのアプローチ		
【学習の目標】	人間性心理学の考え方、アプローチ、さらにその多様性と可能性について理解する。		
【学習の内容】	ロジャースのカウンセリング理論、ナラティブ・セラピー、ソリューション・フォーカスドアプローチなど、人間性心理学に基づく各アプローチについて学ぶ。それらの共通する考え方を理解する。		
【キーワード】	社会構成主義・社会構築主義		
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。		
【参考文献】	その都度提示する。		
【学習する上での留意点】	学部・修士課程での学習を復習して、基本的な用語について理解した上で受講すること。		
8～10. テーマ	認知行動理論からのアプローチ		
【学習の目標】	認知行動理論の基本的な考え方と、近年における広がりについて理解する。		
【学習の内容】	認知行動療法の歴史、基本的な考え方、様々な問題に対する各技法、最近の広がりについて学ぶ。		
【キーワード】	エビデンスベースド、ケースフォーミュレーション		
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。		
【参考文献】	その都度提示する。		
【学習する上での留意点】	学部・修士課程での学習を復習して、基本的な用語について理解した上で受講すること。		
11～13. テーマ	体験治療論・課題解決法からのアプローチ		
【学習の目標】	体験原理と課題解決の視点をもつことができるようにする。		
【学習の内容】	体験原理と課題解決法の考え方を臨床動作法を通して理解する。		
【キーワード】	体験の内容と様式(仕方)		
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。		
【参考文献】	その都度提示する。		
【学習する上での留意点】	学部・修士課程での学習を復習して、基本的な用語について理解した上で受講すること。		

14～16.テーマ	教育分野での臨床心理学的問題
【学習の目標】	スクールカウンセリングや特別支援教育における臨床心理学的問題について最近の研究動向を学ぶ。
【学習の内容】	文献をもとに、最近の研究成果を学ぶ。最近の介入技法、研究方法を明らかにする。
【キーワード】	不登校、いじめ、発達障害
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。
【参考文献】	その都度提示する。
【学習する上での留意点】	問題意識をもって議論に参加すること。
17～19.テーマ	福祉分野での臨床心理学的問題
【学習の目標】	子育て支援、虐待対応、障害者支援、高齢者支援等における臨床心理学的問題について最近の研究動向を学ぶ。
【学習の内容】	文献をもとに、最近の研究成果を学ぶ。最近の介入技法、研究方法を明らかにする。
【キーワード】	虐待、子育て支援、障害者の就労支援、認知症
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。
【参考文献】	その都度提示する。
【学習する上での留意点】	問題意識をもって議論に参加すること。
20～21.テーマ	医療・保健分野での臨床心理学的問題
【学習の目標】	医療・保健分野での臨床心理学的問題について、最近の研究動向を学ぶ。
【学習の内容】	文献をもとに、最近の研究成果を学ぶ。最近の介入技法、研究方法を明らかにする。
【キーワード】	鬱・不安、統合失調症、生殖医療、終末期医療、HIV 感染
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。
【参考文献】	その都度提示する。
【学習する上での留意点】	問題意識をもって議論に参加すること。
22～22.テーマ	産業・労働分野での臨床心理学的問題
【学習の目標】	産業・労働分野での臨床心理学的問題について、最近の研究動向を学ぶ。産業カウンセラーについて学ぶ。
【学習の内容】	文献をもとに、最近の研究成果を学ぶ。最近の介入技法、研究方法を明らかにする。
【キーワード】	職場メンタルヘルス、自殺予防、復職支援
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。
【参考文献】	その都度提示する。
【学習する上での留意点】	問題意識をもって講義に参加すること。
23～24.テーマ	司法・法律・警察分野での臨床心理学的問題
【学習の目標】	司法・法律・警察分野での臨床心理学的問題について、最近の研究動向を学ぶ。
【学習の内容】	文献をもとに、最近の研究成果を学ぶ。最近の介入技法、研究方法を明らかにする。
【キーワード】	被害者支援、触法少年、薬物依存、性犯罪
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。
【参考文献】	その都度提示する。
【学習する上での留意点】	問題意識をもって講義に参加すること。
25～26.テーマ	災害・危機介入分野での臨床心理学的問題
【学習の目標】	災害・危機介入分野での臨床心理学的問題について、最近の研究動向を学ぶ。
【学習の内容】	文献をもとに、最近の研究成果を学ぶ。最近の介入技法、研究方法を明らかにする。
【キーワード】	心理学的ファーストエイド、トラウマワーク
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。
【参考文献】	その都度提示する。
【学習する上での留意点】	問題意識をもって講義に参加すること。
27～30.テーマ	臨床動作法の理論と技法を通して心理臨床を考える
【学習の目標】	臨床動作法の理論と技法を通して、心理臨床における体験様式の変化について考える。
【学習の内容】	臨床動作法の研究成果がどのように臨床に活かされるのかを学ぶ。臨床動作法の技法を体験的に学び、心理臨床における意義を考察する。
【キーワード】	動作、体験様式、自己弛緩体験、自体軸感、自体確実感
【学習の課題】	いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。
【学習する上での留意点】	アタッチメント理論について学ぶだけでなく、考え方を学ぶように。

1. 科目名 (単位数)	家族心理学特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP8269
2. 授業担当教員	手島 茂樹		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	心理学は、まずなぜ人はそう行動するかという個人心理の研究から始まった。しかし、1980 年代に入り、精神医学、発達心理学、集団力学、社会福祉学、家族社会学、家庭教育学などが発展し、その成果を視野に入れた学際的な家族力動 (家族内の複雑な関係の様相、家族を取り巻く社会的システムとの関係) から探求する分野が開かれてきた。ここでは、家族に関わる心理学の研究と臨床実践について探る。		
8. 学習目標	家族心理学とその周辺領域に関する専門書、学術論文を読み、その研究の現状・課題並びにその実践の統合について検討し、各自の研究を定める。すなわち、 1) 家族心理学のシステムテックなものの見方、考え方について理解し、 2) と、同時に、その臨床実践活動を学ぶことを通して、 3) 各自の研究の方向を定めていくことを目標とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	与えられた課題の他、自ら探した国内外の学術論文の研究動向および臨床的問題点を理解する。また、各自の研究・臨床実践への方向性を検討し、ここで発表した概要をレポート(小論文)にまとめる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>・中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス、2008 学術論文や必要資料等はその都度指定するので、用意すること。</p> <p>【参考書】</p> <p>秋山邦久『臨床家族心理学：現代家族とコミュニケーション』福村出版、2009 Adler, Alfred. 1998 <i>Understanding Human Nature</i>. Minnesota: Hazelden. Gadamer, Hans-Georg. 1990 <i>Truth and Method</i>. Translation by Weinsheimer, J. &amp; Marshall, D.G. New York: Crossroad. Heidegger, Martin. 1962 <i>Being And Time</i>. Translated by Macquarrie, J. &amp; Robinson, E. New York: Harper &amp; Row, Publishers. 平木典子『家族との心理臨床』垣内出版、1998 柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待』ミネルヴァ書房、2006 Merleau-Ponty, M. 1989 <i>Phenomenology of Perception</i>. Translated by Colin Smith. London: Routledge, Monk, G., Winslade, J., Crocket, K. &amp; Epston, D. 1997 (国重浩一・バーナード紫訳 2008「ナラティブ・アプローチの理論から実践まで：希望を掘り当てる考古学」北王路書房) Parkes, Graham. Ed. 1987 <i>Heidegger and Asian Thought</i>. Honolulu: University of Hawaii Press. Spielberg, Herbert. 1972 <i>Phenomenology in Psychology and Psychiatry</i>. Evanston: Northwestern. White, M. &amp; Epston, D. 1990 <i>Narrative Means to Therapeutic ends</i>. (小森康永訳 1992「物語としての家族」金剛出版) Wittgenstein, L. 1958 <i>Philosophical investigations</i>. Oxford, England: Blackwell. Wong, P.T. &amp; Fry, P.S. 1998 <i>The Human Quest for Meaning : A Handbook of Psychological Research and Clinical Applications</i>. Routledge.</p>		
11. 成績評価の方法	<p>家族に関わる心理科学の研究・実践について理解し、自分の研究テーマへと結びつける。</p> <p>評価は講義の際のディスカッション並びに発表の質 30% レポート(院生としての基準に満たない論文は、再提出を求める) 60% 文献の熟読と理解 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	臨床心理学 (家族心理学・家族療法を含む) のより高度な実践と研究能力を育もうとする博士課程後期の大学院生は、より広くて深い臨床心理学的知見と臨床実践能力 (スーパーヴィジョンを含む) 並びに研究能力の 3 本柱の確立が必要である。その学びのプロセスを通して、自らの研究領域の課題を発見し、専門家としての意欲・態度・言動を磨いていくこと。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	家族心理学・家族臨床心理学の歴史的展望		
	【学習の目標】 家族とは何か、その理解の変遷を振り返り、現代の家族心理学の方向性を確認する。 【学習の内容】 「家族」という集団への心理学的理解並びに社会学的理解について検討する。 【キーワード】 家族心理学の誕生 【学習の課題】 家族という当たり前で複雑な事象をとらえる学問的な研究の発展を確認する。		
2. テーマ	家族心理学とシステム理論		
	【学習の目標】 家族を理解する鍵概念を理解する。 【学習の内容】 家族の理解のための鍵概念を確認し、家族を理解する理論的な方向性を検討する。 【キーワード】 家族システム理論、形態維持と形態変化 【学習の課題】 家族をとらえる学問的基盤を確認する。		
3. テーマ	家族の発展という観点；独身期から結婚による家族の成立期の諸問題の理解		
	【学習の目標】 家族ライフサイクル面からこの時期の重要性を理解する。 【学習の内容】 原家族との関係と配偶者選択との関連性と新婚期の発達課題について学ぶ。		

	<p>【キーワード】 親密な人間関係の構築・交際期間の長期化・相互信頼感の確立</p> <p>【学習の課題】 夫婦関係や結婚生活に関する非合理的な思い込みについて議論する。</p>
4. テーマ	<p>家族の発展という観点；乳幼児から小学生を育てる家族の諸問題</p> <p>【学習の目標】 子育てに伴うストレスについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 子どもの誕生に伴って直面する課題と夫婦関係の満足度の変化について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 経済的ストレス・身体的ストレス・心理的ストレス・人間関係のストレス</p> <p>【学習の課題】 小学校のスクールカウンセラーの家族支援の実際と望ましいあり方について考える。</p>
5. テーマ	<p>家族の発展という観点；青年期の子どもを育て老人期を抱える家族の諸問題</p> <p>【学習の目標】 青年期の子どもをみていく親達は同時に自分達の親の介護の時期にあたる。この難しい時期の諸問題を理解する。</p> <p>【学習の内容】 青年期と老人期の発達課題から、何が問題として生じやすいか考察する。</p> <p>【キーワード】 自我同一性の課題、中年期危機、夫婦関係の再構築、高齢者介護</p> <p>【学習の課題】 中年期夫婦が取り組むべき内容とその際に生じやすい危機ことについて議論する。</p>
6. テーマ	<p>家族の問題という観点 I 夫婦関係</p> <p>【学習の目標】 夫婦としての絆づくりの重要性を理解する。</p> <p>【学習の内容】 夫婦が絆づくりの過程で経験する様々な危機をどの様に乗りに越えていくのかを事例をもとに考察する。</p> <p>【キーワード】 カップルセラピー・晩婚化・離婚・中年期危機</p> <p>【学習の課題】 現代の結婚事情と離婚の動向について調べ、その対応の在り方を議論する。</p>
7. テーマ	<p>家族の問題という観点 II 子育て問題</p> <p>【学習の目標】 親になることの意味とその現状について理解する。</p> <p>【学習の内容】 子育てを通して成長していく親の心理的・社会的・行動的変容を考察する。</p> <p>【キーワード】 親になる意識・子育て・心理的離乳・夫婦関係満足度</p> <p>【学習の課題】 離婚に至る経緯から子ども達に与える諸問題並びにそうならないための対策について議論する。</p>
8. テーマ	<p>家族の問題という観点 III 親子関係</p> <p>【学習の目標】 フロイト以来、人格の基礎は家族関係からと言われているが、その真意について理解する。</p> <p>【学習の内容】 親子関係が与える影響について考察する。</p> <p>【キーワード】 シングル・マザー・ジェンダー・バイアス・ジェンダー・センシティブ</p> <p>【学習の課題】 ジェンダーのレンズとは何かを議論する。</p>
9. テーマ	<p>家族の問題という観点 IV 多世代関係</p> <p>【学習の目標】 家族の多世代にわたる関係性と家族メンバーに与える影響を理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族のライフサイクルを検証しつつ、その円環的相互作用について考察する。</p> <p>【キーワード】 思春期と思秋期・心理的距離・中年期危機・過労死・多重役割葛藤</p> <p>【学習の課題】 家族が成長していく過程で迎える思春期と思秋期に対するサポートの在り方を議論する。</p>
10. テーマ	<p>家族の問題 家族が経験するストレス問題</p> <p>【学習の目標】 妻にとっての夫、夫にとっての妻はどのように家族の中で存在するか、ストレスの視点より理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族が経験するストレスの種類について考察する。</p> <p>【キーワード】 家庭内ケア役割期待・過労死・自殺・うつ病・権力闘争</p> <p>【学習の課題】 家庭内ケア役割期待を中核に、ワーク・ライフ・コンフリクトにうまく対処しワーク・ライフ・バランスを維持させるためには、どのような支援をしたらよいか議論する。</p>
11. テーマ	<p>家族（関係）の病理 I 家族間暴力①</p> <p>【学習の目標】 家族が直面している社会的な問題とその病理を理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族関係が作り出す攻撃性とその対処法について事例を通して考察する。</p> <p>【キーワード】 児童虐待・高齢者虐待・親族間殺人</p> <p>【学習の課題】 家族関係の病理の背景を考察し、その予防的な対応を考える。</p>
12. テーマ	<p>家族（関係）の病理 II 家族間暴力②</p> <p>【学習の目標】 DV家族の背景を含めた諸問題とその子ども達への影響について理解する。</p> <p>【学習の内容】 DV被害者の心理的特徴と被害者間のコミュニケーションの悪循環を分析し、対応の在り方を考察する。</p> <p>【キーワード】 クシャルハラスメント・コミュニケーション・パターン：アサーティブな関係</p> <p>【学習の課題】 DV関係の暴力についてその背景やきっかけを含めて考える。</p>
13. テーマ	<p>家族（関係）の病理 III 物質依存</p> <p>【学習の目標】 家族メンバーが抱えやすいストレスとその病理についてその背景を含めて理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族関係の病理をコミュニケーション・パターンをもとに考察する。</p> <p>【キーワード】 アルコール依存・ギャンブル依存・薬物依存・買い物依存</p> <p>【学習の課題】 コミュニケーションの悪循環を解決するアプローチ並びに学習理論の立場から解決法を探る。</p>
14. テーマ	<p>男性と家族</p> <p>【学習の目標】 男女協同社会における男性の家族内の役割について。</p> <p>【学習の内容】 家族の中での男性と男らしさをめぐる諸問題について理解する。</p> <p>【キーワード】 男性の子育て参加・男性の恐れと思い込み・男性のうつ病と自殺</p> <p>【学習の課題】 男は仕事、女は家庭から世の人々はどのように意識が変化してきているか、その背景も含めて考察する。</p>
15. テーマ	<p>家族療法</p> <p>【学習の目標】 家族療法が誕生する経緯について理解する。</p> <p>【学習の内容】 個人療法や他の集団療法との違いを考察する。</p> <p>【キーワード】 多世代家族療法・構造的家族療法・MR I 家族療法・ミラノ派家族療法・ソリューション・フォーカスト・アプローチ・社会構成主義・ナラティブ・アプローチ</p> <p>【学習の課題】 家族療法が生まれた経緯からこれがなぜ有効的なのか考える。</p>

1. 科目名 (単位数)	家族療法特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP9289
2. 授業担当教員	手島 茂樹		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修の条件として、先に「家族心理学特殊研究」を履修済ませていることが望ましい。		
7. 講義概要	フロイトは乳幼児期での家族内の育ちが人格形成の基盤になることを発見したと言えよう。その後の数々の心理療法の発展は、その対処法へのバリエーションができたものと言えよう。 家族内の人間関係の質は、我々人間の成長・発達には不可欠なものであるが、そこに新しいシステム論が加わり、そこから家族療法という心理療法の立場が生まれている。 ここでは家族療法の3つの立場を通して、理論・実践とその課題を学ぶ。		
8. 学習目標	次のことを理解していく。 1. システムアプローチと家族療法 2. ボーエンの家族システム理論 3. ミニューチンの家族構造療法 4. MR I の家族相互影響アプローチ 5. その他の家族療法		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートの課題は以下の通りである。 1. ボーエンの家族システム理論の特色を考察せよ。 2. ミニューチンの家族構造療法の特色を考察せよ。 3. MR I の家族相互影響アプローチの特色を考察せよ。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『家族療法入門』遊佐安一郎 著、星和書店。 【参考書】 『家族の心理』平木典子・中釜洋子著、サイエンス社。 『家族療法学』リン・ホフマン著、金剛出版。 『家族療法の基礎理論』リン・ホフマン著、サイエンス社		
11. 成績評価の方法	・家族療法に関する論文を読み、その内容を考察し、発表する 50% ・レポート 50% *出席が4分の3満ちてはじめて評価の対象となる。(論文の考察発表やレポートを提出しただけでは評価対象にならない。)		
12. 受講生へのメッセージ	家族療法は、その重要性は十分に知らされながら、しかしその実践はまだ十分になされていない。抱えている問題は個人のものであるが、家族というシステムから発生し、かつその問題の継続に家族がかかわっているという考え方に馴染まないからであろう。 しかし、我が国は、ちょっと前までは家族主義と言われた文化であった。そういう意味では欧米よりもこの療法の意味が深いと思われる。家族療法に興味と関心のある学生とぜひ一緒に学びたいと思う。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	1. 家族療法とは何か		
【学習の内容】	全体構造、実践活動、研究活動、専門活動、その歴史		
【学習の課題】	教科書：pp.1～11 を読みまとめておく。 家族療法が今日に至る歴史についてまとめておく。		
【参考文献】			
【学習する上での留意点】			
2. テーマ	2. システムズ・アプローチと家族療法 (1)		
【学習の目標】	システムの特性並びに生物体システムの7つのレベルを理解する。		
【学習の内容】	一般システム理論・システムの分類法・一般生物体システム理論		
【学習の課題】	教科書：pp.13～36 を読みまとめておく。		
3. テーマ	システムズ・アプローチと家族療法 (2)		
【学習の目標】	システムズアプローチを診断する6つのステップを理解する。		
【学習の内容】	一般生物体システム理論と家族療法・システムズアプローチと家族療法		
【学習の課題】	教科書：pp.36～61 を読みまとめておく。		
4. テーマ	3. ボーエンの家族システム理論 (1)		
【学習の内容】	背景・健全な家族像と家族病理・家族システムの不適応の評価		
【学習の課題】	教科書：pp.63～94 を読みまとめておく。 ボーエン理論の歴史的背景についてまとめておく。		
5. テーマ	ボーエンの家族システム理論 (2)		
【学習の内容】	家族システム療法の実際・適応症・訓練		
【学習の課題】	教科書：pp.95～105 を読みまとめておく。 セラピストの機能についてまとめておく。		

6 . テ ー マ	4. ミニューチンの家族構造療法 (1)
【学習の内容】	背景・基本的概念・健全な家族と家族病理
【学習の課題】	教科書：pp.107～120 を読みまとめておく。 この立場での健全な家族と家族病理についてまとめておく。
7 . テ ー マ	ミニューチンの家族構造療法 (2)
【学習の内容】	家族構造の評価と治療の目標・家族構造療法の実際
【学習の課題】	教科書：pp.120～130 を読みまとめておく。 本療法の具体例を探し、まとめておく。
8 . テ ー マ	ミニューチンの家族構造療法 (3)
【学習の内容】	家族構造療法の技法・適応症・訓練
【学習の課題】	教科書：pp.130～164 を読みまとめておく 家族構造療法の技法をまとめておく。
9 . テ ー マ	5. MR I の家族相互影響アプローチ (1)
【学習の内容】	歴史的背景・理論的背景・家族相互影響の理論
【学習の課題】	教科書：pp.165～204 を読みまとめておく。 本療法の理論的背景をまとめておく。
10 . テ ー マ	MR I の家族相互影響アプローチ (2)
【学習の内容】	健全な家族と家族病理・MR I での家族療法の実際
【学習の課題】	教科書：pp.204～231 を読みまとめておく。 家族病理のコミュニケーションの特色をまとめておく。
11 . テ ー マ	MR I の家族相互影響アプローチ (3)
【学習の内容】	MR I 短期療法の効果・適応症・訓練
【学習の課題】	教科書：pp.231～234 を読みまとめておく。 本療法の適応症についてまとめておく。
12 . テ ー マ	6. 家族セラピスト
【学習の内容】	カール・ウイタカ・家族療法チーム
【学習の課題】	教科書：pp.235～254 を読みまとめておく。 家族療法のチームのあり方についてまとめておく。
13 . テ ー マ	7. 家族療法の技法 (1)
【学習の内容】	アサイメント
【学習の課題】	アサイメントに関する論文を読む。 一つのアサイメントを体験しておく。
14 . テ ー マ	家族療法の技法 (2)
【学習の内容】	介入方法の実習
【学習の課題】	介入に関する事例研究を読みまとめておく。 受け持っているケースへの介入方法について考えてみる。
15 . テ ー マ	家族療法のスーパービジョン
【学習の課題】	家族療法のスーパービジョンについての論文を読んでおく。 スーパービジョンの問題点を考察しておく。

1. 科目名 (単位数)	学校臨床心理学特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP8267
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	現代の学校が抱える様々な問題に対応する際に、子ども達の遠矢の関係、子ども達同士の関係、子ども達と教師の関係、また、保護者を含む社会と学校との関係を人間科学（現象学）では深いレベルで分析することができる。よって本講義では、ハイデガーの「存在と時間」を非常に分かり易く解説をしている Dreyfus の英文の著書を購入していく。現代社会のように IT 産業の発達に伴う対人関係の希薄化が及ぼす影響は大きい。また子どもの生活環境の多文化を含む多様化は、学校生活においても見逃せない状況でもある。ハイデガーの現象学は、我々が日々行う相互作用の原点を人間科学の視点で考えさせるものである。この様に原点に立ち返り、この世界に存在する人々にとっての意味を、臨床心理学的見解に基づいて明らかにする。		
8. 学習目標	1. 現代の学校という教育環境に不足しているものは何か、オントロジーの視点から学校臨床心理学の問題点を追及する。 2. ハイデガーの現象学について理解を深め、望ましい学校臨床心理学の実践に迫る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1.各講義に関する章を読み理解を深め、自己の見解をまとめ提出する。 2.ファイナルレポート(1本)は、研究テーマに関連する問題点の一つに焦点を絞り、現象学的視点より論考する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 Dreyfus, Hubert L. Being-in-the-World. Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1991.</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社 Parkes, Graham. Ed. Heidegger and Asian Thought. Honolulu: University of Hawaii Press, 1987. Spielberg, Herbert. Phenomenology in Psychology and Psychiatry. Evanston: Northwestern University Press, 1972. Adler, Alfred. Understanding Human Nature. Minnesota: Hazelden, 1998. Merleau-Ponty, M. Phenomenology of Perception. Translated by Colin Smith. London: Routledge, 1989 Heidegger, Martin. Being And Time. Translated by Macquarrie, J.&amp; Robinson, E. New York: Harper &amp; Row, Publishers, 1962. Gadamer, Hans-Georg. Truth and Method. Translation by Weinsheimer, J. &amp; Marshall, D.G. New York: Crossroad, 1990. Wong, P.T.&amp; Fry, P.S. The Human Quest for Meaning : A Handbook of Psychological Research and Clinical Applications. Routledge, 1998. Monk, G., Winslade, J., Crocket, K. &amp; Epston, D. Narrative Therapy in Practice: The Archaeology of Hope 1997 (国重浩一・バーナード紫 訳 2008「ナラティブ・アプローチの理論から実践まで: 希望を掘り当てる考古学」) 北王路書房 木田元 「幼児の対人関係」 みすず書房 2001年 木田元 「ハイデガー拾い読み」 新書館 2004年</p>		
11. 成績評価の方法	発表レジュメ(12課題) 60% ファイナルレポート 40% (評価点) A: 100~90 B+: 89~80 B: 79~70 C: 69~60 F: 59点以下		
12. 受講生への メッセージ	本講義では英文の教科書を使用しますので、各講義の準備をしっかりとしていただきたいと思います。また、ディスカッション中心の講義によって人間の存在の意味を追求することにより、日常生活としての学校・家庭・社会という環境と子どもの発達と対人関係について理解を深めていきたいと思っています。		
13. オフィスアワー	講義にて発表		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	第1章：ハイデガーの「存在と時間」に関して：導入と方法について		
	<p>【学習の目標】 ハイデガー現象学により学校臨床の在り方を探る。 【学習の内容】 本講義の導入として、ハイデガー現象学に至る歴史的背景を理解する。 【キーワード】 現象学・オントロジー/ the Question of Being by Way of Dasein 【学習の課題】 教科書第1章を熟読する。 【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>		
2. テーマ	第2章：ハイデガーの方法論的導入について		
	<p>【学習の目標】 学校臨床心理学の現場における研究の在り方を議論する。 【学習の内容】 ハイデガーの現象の捉え方を理解する。 【キーワード】 The Phenomenon/ Logos/ Phenomenology/ Hermeneutics 【学習の課題】 教科書第2章を熟読する。 【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>		
3. テーマ	第3章：世界内存在に関する概略について		
	【学習の目標】 現に存在する子どもたちの問題を現象学的に解釈する。		

	<p>【学習の内容】 世界内存在とはという問いと、現に存在する子どもたちの問題を対比する。</p> <p>【キーワード】 Being-in/ Heidegger's Critique</p> <p>【学習の課題】 教科書第 3 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
4 . テ ー マ	第 4 章：直ぐ捉えることと、今まさに起こっていることとは
	<p>【学習の目標】 学校臨床心理学における研究のデータの捉え方として、問題の在り方を議論する。</p> <p>【学習の内容】 ハイデガーの捉える、人の存在の仕方を理解する。</p> <p>【キーワード】 Availableness/ Occurrentness/ Equipment/ Deliberate Action</p> <p>【学習の課題】 教科書第 4 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
5 . テ ー マ	第 5 章：世界観について
	<p>【学習の目標】 学校臨床心理学における研究のデータの捉え方として、社会環境の在り方を議論する。</p> <p>【学習の内容】 ハイデガーの捉える、人が存在する世界の意味を理解する。</p> <p>【キーワード】 The Worldliness of the World/ Four Senses of World</p> <p>【学習の課題】 教科書第 5 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
6 . テ ー マ	第 6 章：デカルト学派の現代版に対するハイデガーの批評
	<p>【学習の目標】 学校臨床心理学における研究のデータの捉え方として、ハイデガーの批判を議論する。</p> <p>【学習の内容】 オントロジーに対するハイデガーの批判を通して、人の存在の仕方を理解する。</p> <p>【キーワード】 Nature as Available/ Nature as Occurrent</p> <p>【学習の課題】 教科書第 6 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
7 . テ ー マ	第 7 章：空間性と空間
	<p>【学習の目標】 子どもの問題と向かい合うためには必然的な家庭・学校をはじめとする子どもの社会環境の在り方を議論する。</p> <p>【学習の内容】 存在する位置づけにこそ存在の意味があることを理解する。</p> <p>【キーワード】 Spatiality and Space/ Dasein's Location</p> <p>【学習の課題】 教科書第 7 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
8 . テ ー マ	第 8 章：誰の日常の現存在か
	<p>【学習の目標】 子どもの問題と向かい合うためには必然的である子どもと子どもを取り巻く人々の日常の在り方を議論する。</p> <p>【学習の内容】 自己としての存在の意味を子どもはどう捉えているのかを理解する。</p> <p>【キーワード】 Being-With/ Human Being as Shared Social Activity/ das Man/ Everydayness</p> <p>【学習の課題】 教科書第 8 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
9 . テ ー マ	第 9 章：3 段階構造の内存在について
	<p>【学習の目標】 ここまでのまとめ。</p> <p>【学習の内容】 ハイデガーのオントロジーについて再確認する。</p> <p>【キーワード】 Dasein Being-in-the World</p> <p>【学習の課題】 教科書第 9 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
10 . テ ー マ	第 10 章：不自然性について
	<p>【学習の目標】 本来性と不自然性について議論する。</p> <p>【学習の内容】 ハイデガーの本来性について理解する。</p> <p>【キーワード】 Affectedness/Mood/ Thrownness/ Fear and Anxiety</p> <p>【学習の課題】 教科書第 10 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
11 . テ ー マ	第 11 章：理解とは
	<p>【学習の目標】 オントロジーの観点から考える「理解する」ことについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 ハイデガーの本来性と自己理解について議論する。</p> <p>【キーワード】 Understanding/ Authentic and Inauthentic Understanding/ Interpretation</p> <p>【学習の課題】 教科書第 11 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
12 . テ ー マ	第 12 章：言うことと感覚とは
	<p>【学習の目標】 学校臨床フィールドにおけるナラティブアプローチおよびインタビュー研究の語りの捉え方を考える。</p> <p>【学習の内容】 ハイデガーの言語・言葉の捉え方について理解する。</p> <p>【キーワード】 Language/ Sense/ Communication/ Intelligibility</p> <p>【学習の課題】 教科書第 12 章を熟読する。</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社</p>
13 . テ ー マ	第 13 章：身をまかすこととは
	<p>【学習の目標】 学校臨床フィールドにおけるナラティブアプローチおよびインタビュー研究の語りの捉え方を考える。</p> <p>【学習の内容】 ハイデガーの言語・言葉の捉え方について理解する。</p> <p>【キーワード】 idle talk/ Reflexivity and Distortion/ Fallenness</p>



【学習の課題】教科書第 13 章を熟読する。	
【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社	
14. テーマ	第 14 章：配慮構造について
【学習の目標】本来性と配慮構造について議論する。	
【学習の内容】ハイデガーの本来性について理解する。	
【キーワード】The Self/ Temporality as Making Sense of Care	
【学習の課題】教科書第 14 章を熟読する。	
【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社	
15. テーマ	本講義のまとめと考察
【学習の目標】ハイデガーの捉えるオントロジーと学校臨床フィールドにおける現状を理解する。	
【学習の内容】現実の世界に生きる子どもたちを理解するうえでのハイデガーのオントロジーの限界について議論する。	
【キーワード】Reality/ Truth/ Everydayness	
【学習の課題】教科書第 15 章を熟読する。	
【参考文献】 Heidegger, Martin 1964 存在と時間(上・下) 細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳 理想社	

1. 科目名 (単位数)	教育心理学特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP7233
2. 授業担当教員	太田 信夫		
4. 授業形態	講義、講読演習、実験実習を、適宜行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	Human Learning and Memory: Advances in Theory and Application (Eds. C.Izawa & N.Ohta, 2005, LEA) をテキストにする。本書は、近年の国際的な研究動向を代表するいくつかの教育心理学研究が紹介され、論じられている。これらの諸研究を参考にして、受講生各自は、追試的な実験計画をたて、実際に独自の小実験をする。最近の研究を知ると同時に、実験について計画、準備、実施、データの処理、結果の考察などをする過程で、教育心理学の研究実践能力をより向上させる。すなわち、教育心理学に関する最近の知識の習得、実際的な研究遂行能力や教育心理学的考え方の精練を本授業の目的とする。		
8. 学習目標	テキストを読み、内容をよく理解し考察を深める。 実験を行い、レポートにまとめ、ポスター形式で発表する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	テキストの内容について、レジュメを作成しコメントをする+。 自分の行った実験について、目的、方法、結果、考察に関してレポートにまとめること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 Human Learning and Memory: Advances in Theory and Application (Eds. C.Izawa & N.Ohta, 2005, LEA) の必要部分をコピーしたものを、教材として用意する (テキスト購入の必要はない)。		
11. 成績評価の方法	テキストのレジュメ、実験レポート、出席状況について、評価をする。 レジュメ—30%、レポート—60%、出席—10%		
12. 受講生への メッセージ	心理学研究の難しさ、面白さ、楽しさを実感してほしい。		
13. オフィシアワー	授業終了後、3 時間程度。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	Chapter 5 Optimal foreign Language Learning and Retention(pp.107-134) - 1		
【学習の目標】	著者の Izawa 氏の研究の概略をつかむ。		
【学習の内容】	学習の効率と教育		
【学習の課題】	本文の始めから 1/3 をまとめる。		
2. テーマ	Chapter 5 Optimal foreign Language Learning and Retention(pp.107-134) - 2		
【学習の目標】	本論文の目的と仮説を理解する。		
【学習の内容】	特に理論について学ぶ。		
【学習の課題】	本文の中程の 1/3 をまとめる。		
3. テーマ	Chapter 5 Optimal foreign Language Learning and Retention(pp.107-134) - 3		
【学習の目標】	本論文の目的・方法・結果・考察を理解する		
【学習の内容】	本実験の内容について学ぶ。		
【学習の課題】	本文の終わりの 1/3 をまとめる。		
4. テーマ	Chapter 5 Optimal foreign Language Learning and Retention(pp.107-134) - 4		
【学習の目標】	本テーマについて考察を深める。		
【学習の内容】	効果的なテストの仕方について学ぶ。		
【学習の課題】	Chapter5 についてのコメントをまとめる。		
5. テーマ	Test Effect に関する最新の外国文献のレビュー (1)		
【学習の目標】	Roediger らの研究について概略をつかむ。		
【学習の内容】	関連文献をリストアップし、その研究の傾向を学ぶ		
【学習の課題】	ある論文(1)を紹介するレジメを作成する。		
6. テーマ	Test Effect に関する最新の外国文献のレビュー (2)		
【学習の目標】	論文(2)を理解する。		
【学習の内容】	論文(2)		
【学習の課題】	論文(2)をまとめる。		
7. テーマ	Test Effect に関する最新の外国文献のレビュー (3)		
【学習の目標】	論文(3)を理解する。		
【学習の内容】	論文(3)		

	【学習の課題】論文(3)をまとめる。
8 . テ ー マ	Test Effect に関する最新の外国文献のレビュー (4)
	【学習の目標】論文(4)を理解する。 【学習の内容】論文(4) 【学習の課題】論文(4)をまとめる。
9 . テ ー マ	実験実習 (1)
	【学習の目標】問題の所在を明確にする。 【学習の内容】目的と仮説を立てる。 【学習の課題】目的と仮説についてまとめる。
10 . テ ー マ	実験実習 (2)
	【学習の目標】方法を明確にする、 【学習の内容】適切の方法について学ぶ。 【学習の課題】方法についてまとめる。
11 . テ ー マ	実験実習 (3)
	【学習の目標】実験計画を精練する。 【学習の内容】実験計画の立て方について学ぶ。 【学習の課題】実験計画についてまとめる。
12 . テ ー マ	実験実習 (4)
	【学習の目標】実験の準備ができる。 【学習の内容】実験材料、実験装置などの作成について学ぶ。 【学習の課題】実験の準備についてまとめる。
13 . テ ー マ	実験実習 (5)
	【学習の目標】実験の実施ができる。 【学習の内容】実験の実施 【学習の課題】実験結果とその分析についてまとめる。
14 . テ ー マ	実験実習 (6)
	【学習の目標】パワーポイントで発表できる。 【学習の内容】上手は発表の仕方について学ぶ。 【学習の課題】発表とそれに対する質問についてまとめる。
15 . テ ー マ	実験実習 (7)
	【学習の目標】投稿論文形式で、研究論文を作成できる。 【学習の内容】論文の書き方について学ぶ。 【学習の課題】論文を完成させる。

1. 科目名 (単位数)	高齢者心理学特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP8268
2. 授業担当教員	中里 克治		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	高齢者を対象とした心理臨床の実践のための最新の専門知識を修得する。講義は演習形式も取り入れながら行う。心に加齢現象を正常な加齢と病的な加齢の両面と第3の加齢である終末低下の観点から探求していく。認知症(痴呆)のように高齢期に生じやすい病理だけでなく、統合失調症のように中年期以前に発症した病理が高齢期にどのように変化するかについても考察・分析する。		
8. 学習目標	1) 正常な加齢: 知能およびパーソナリティの正常な高齢者の適応 2) 病的な加齢: 高齢期特有の病理(認知症、老人性うつ病など) 3) 第3の加齢: 中年期以前に発症した病理(統合失調症)の高齢期における病態		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	自分で探した学術論文と指定された学術論文を問題提起、研究方法、その研究であられた知見の観点から整理・理解し、自分の研究との関連等についての考察を加えてレポートを作成する。教材とする論文は主として英語論文となる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館。 【参考書】 下仲順子 編『老年心理学(改定版)』培風館。		
11. 成績評価の方法	レポート 50%、授業参加態度 50%		
12. 受講生への メッセージ	博士後期課程では専門性とそれを支える幅広い知識のバランスが大切である。専門的知識の修得軸に、その理解のために必要な基礎的知識と境界領域の知識の修得にも努めてほしい。教育者を目指すにせよ、研究者を目指すにせよ、教育と研究のバランスが大切である。特に高齢者心理学の分野は日進月歩であり、常に新たな知見や理論を学ぶことが必須である。		
13. オフィスアワー	必要に応じて、個別にアポイントをとること。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	高齢化社会の到来と新しい高齢者像		
【学習の目標】	少子高齢化時代における高齢者像と年齢の意味の変化の意味について学ぶ。		
【学習の内容】	人口の高齢化と寿命の伸長により、高齢期と年齢の意味がどのように変化してきたかを学ぶ。		
【キーワード】	高齢化社会、高齢社会、前期高齢期、後期高齢期、ヤングオールド、初老		
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館		
2. テーマ	老化、老化理論、研究方法		
【学習の目標】	老化とは何か、どのように老化を研究するかを理解する。		
【学習の内容】	老化の定義、老化の理論、研究方法について学ぶ。		
【キーワード】	正常老化、病的老化、終末低下、横断法、縦断法、系列法		
【学習の課題】	老化の原因と現れ方、その研究方法について学ぶ。		
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館		
3. テーマ	生涯発達理論における高齢期		
【学習の目標】	生涯発達の中で高齢期について理解する。		
【学習の内容】	エリクソンの心理社会的発達理論における高齢期の発達課題としての統合とは何か。		
【キーワード】	エリクソン、心理社会的発達理論、統合、発達課題、危機、力(生きる力)		
【学習の課題】	自分の人生と死の受容、すべての発達課題の統合としての統合とは何かを学ぶ。		
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館		
4. テーマ	高齢者の健康、身体・生理・運動機能の老化		
【学習の目標】	高齢者の身体面の老化と高齢期の疾病について学ぶ。		
【学習の内容】	身体の老化のあり方、高齢期にかかりやすい疾病だけでなく、付随する様々な変化や影響についても学ぶ。		
【キーワード】	老年症候群、廃用性症候群、老徴、転倒、閉じこもり症候群		
【学習の課題】	健康な老後を送るための工夫を考える。		
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館		
5. テーマ	老年期の記憶と知能		
【学習の目標】	老年期の記憶と知能の加齢変化について理解する。		
【学習の内容】	記憶と知能の様々な側面ごとの加齢の影響について学ぶ。		
【キーワード】	感覚記憶、短期記憶、長期記憶、一次記憶、作動記憶、エピソード記憶、意味記憶、自伝的記憶、手続き記憶、結晶性知能、流動性知能、言語理解、作動記憶(知能)、知覚統合、処理速度、終末低下		
【学習の課題】	記憶と知能の老化について知り、その知識をよき老後のためにどう生かすかを考える。		
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館		
6. テーマ	老年期のパーソナリティ		
【学習の目標】	老年期にパーソナリティのどの部分が変化し、どの部分が維持されるかを理解する。		
【学習の内容】	旧来の老年期のパーソナリティに関する知識はエイジズムに影響されたものである。真の老年期にパーソナリティの加齢変化について学ぶ。		

【キーワード】	安定性、変化、自己概念、長寿
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
7. テーマ	パーソナリティと適応
【学習の目標】	パーソナリティが高齢期の適応にどのように影響しているかを理解する。
【学習の内容】	初期のサクセスフル・エイジングから、健康長寿を目指すプロダクティブ・エイジングの考え方に至る高齢期の適応に関する研究の軌跡を学ぶ。
【キーワード】	サクセスフル・エイジング、活動理論、離脱理論、主観的幸福感、円熟型、ロックキングチェア型、防衛型、外罰型、内罰型、ストレスフル・ライフイベント、コーピング、プロダクティブ・エイジング
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
8. テーマ	高齢期の人間関係
【学習の目標】	高齢期の人間関係は少子高齢化と核家族化によって大きく変わっていることを理解する。
【学習の内容】	高齢者にとって、ソーシャル・サポートはとりわけ大切である。どのように維持してゆくかを学ぶ。
【キーワード】	核家族化、一人暮らし、ソーシャル・サポート、ソーシャルネットワーク、コンボイモデル
【学習の課題】	高齢者の望むソーシャル・サポートとは何かを考えてみよう。
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
9. テーマ	高齢期の精神疾患
【学習の目標】	高齢期特有の精神疾患と中年期までに発症した疾患の高齢期での変化を理解する。
【学習の内容】	認知症とうつ病は高齢期を特徴づける疾患であり、自殺の問題も中年期にもまして深刻であることを学ぶ。
【キーワード】	認知症、アルツハイマー型認知症、血管型認知症、レビー小体認知症、若年性認知症、気分障害、統合失調症
【学習の課題】	認知症はかならずしも高齢期特有のものではないが、年齢とともにJカーブで増える。その対応を考えてみよう。
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
10. テーマ	高齢期の心理臨床
【学習の目標】	高齢者の心理臨床について理解する。
【学習の内容】	高齢者の心理臨床は基本的には中年期までと大きく変わるものではない。しかし、心身の加齢と認知症の影響を十分に考慮しなければならない。その留意点について学ぶ。
【キーワード】	精神療法、心理療法、カウンセリング
【学習の課題】	認知症がないか軽度の高齢者で特に留意すべき点について調べてみよう。
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
11. テーマ	高齢者を対象とした認知機能の検査
【学習の目標】	高齢者を対象とした認知機能の検査について理解する。
【学習の内容】	知能検査もふくめた一般的な神経心理学的検査と認知症のスクリーニング・テストについて学ぶ。
【キーワード】	知能検査、神経心理学的検査、認知症スクリーニング・テスト
【学習の課題】	認知症スクリーニング・テストの効用と限界をきちんと押さえておこう。
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
12. テーマ	高齢者を対象としたパーソナリティ・テストとメンタルヘルスの検査
【学習の目標】	高齢者を対象としたパーソナリティ・テストとメンタルヘルスの検査を理解する。
【学習の内容】	高齢者にも基本的には一般的なパーソナリティ・テストとメンタルヘルスの検査が適用される。しかし、一部、高齢者用に作られた検査もある。
【キーワード】	ローロシャッハテスト、TAT、抑うつ尺度、不安検査、精神健康調査票
【学習の課題】	高齢者用に作られた検査はどのような工夫がされているか。
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
13. テーマ	リアリティオリエンテーションと回想法
【学習の目標】	高齢者用に開発されたリアリティオリエンテーションと回想法について学ぶ。
【学習の内容】	この2つの療法の特徴とさまざまな使い方について学ぶ。
【キーワード】	リアリティオリエンテーション、回想法
【学習の課題】	専門家でなくても行える療法であるが、どのような人がリアリティオリエンテーションと回想法を使えるか。
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
14. テーマ	その他の療法
【学習の目標】	高齢者にも比較的多く行われるさまざまな療法について理解する。
【学習の内容】	高齢者に音楽療法、アニマルセラピー、コラージュを行うことのメリットと適用するための工夫について学ぶ。
【キーワード】	音楽療法、アニマルセラピー、コラージュ
【学習の課題】	高齢者では若い人と比べて、どのような注意が必要であろうか。
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
15. テーマ	死と死ぬ過程、グリーフカウンセリング
【学習の目標】	死と死ぬ過程、グリーフカウンセリングについて理解する。
【学習の内容】	死と死ぬ過程は高齢者の理解に必須である。また、グリーフカウンセリングの考え方を学ぶことは死の理解を深めるものである。
【キーワード】	キューブラ・ロス、死の受容の段階、悲嘆、グリーフ、死別
【学習の課題】	死は本人の問題であると同時に、家族をはじめとする残された人々の問題でもある。ホスピス・ケアでの家族への対応について調べてみよう。
【参考文献】	下仲順子 編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館

1. 科目名 (単位数)	心理療法特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP8288
2. 授業担当教員	織田 正美		
4. 授業形態	演習、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理療法の種類は心理療法家の数だけある、といわれるぐらいメジャーなものからマイナーなもの、あるいは複数の療法を1つにまとめたものなど様々なものがある。この授業では、比較的メジャーなもの、あるいは歴史的にみて重要と思われるものについて解説する。</p> <p>また、治療過程においては、常に当該個人の優れた面、長所に着目し、それを重要な手がかりにして「問題性」を改善していくという「治療マインド」が必要である。その意味で近年重要視されているポジティブ心理学の考え方を随時取り入れて、解説する。</p> <p>人間はともすれば自己のネガティブな面に目が行きやすいが、むしろ自己のポジティブな面に着目し、自己の成長、発展、改善をしていくことが大切である、というのがポジティブ心理学の本質である。特に「抑うつ」(人間のネガティブな面)の実験心理学的研究者であった米国心理学会長のセリグマンがこのことを主唱していることも意義のあることだといえる。</p> <p>この授業では、教科書や参考書、ビデオ教材を中心に解説する。</p>		
8. 学習目標	ポジティブ心理学の考え方と心理療法の理論と実際をマスターする		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業において、教科書・参考書を用い、レジュメを作り、発表してもらう		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 特になし。各回レジュメを配布する。</p> <p>【参考文献】 乾吉佑他編、鶴光代他著 「心理療法ハンドブック」 創元社 2006年</p>		
11. 成績評価の方法	成績は、発表の内容とレポートと出席点を総合して評価する。		
12. 受講生への メッセージ	大学院では学問的研究を行うことを自覚すること		
13. オフィスアワー	授業の前後に行う		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1～5. テーマ	心理療法とは (イントロダクション)		
【学習の目標】	心理療法の本質について理解する。		
【学習の内容】	心理療法の歴史、種類、個々の内容、技法などの「概容・要点」について学ぶ。		
【キーワード】	心理療法の歴史、理論と技法、倫理、ICD10。		
【学習の課題】	上記の学習内容をふまえて、心理療法のあり方を習得する。		
【参考文献】	乾吉佑他編、鶴光代「心理療法ハンドブック」 創元社 2006年		
【学習する上での留意点】	とくに心理療法の「あり方」を理解すること。		
6～13. テーマ	代表的な心理療法の理論と技法		
【学習の目標】	心理療法の代表的なものについて「理論と技法」を理解する。		
【学習の内容】	精神分析、認知行動療法、遊戯療法、イメージ療法、内観療法、森田療法、ブリーフセラピー、交流分析、臨床動作法、ナラティブセラピー、グループ療法、理性感情行動療法。		
【キーワード】	上記、学習内容の記載事項と同じ。		
【学習の課題】	上記の学習内容に記載されている、各種の心理療法の理論と技法の内容と、それぞれの共通性、相違点を習得する。		
【参考文献】	乾吉佑他編、鶴光代「心理療法ハンドブック」 創元社 2006年		
【学習する上での留意点】	とくに個々の心理療法の「理論と技法」を理解すること。		
14～15. テーマ	ポジティブ心理学の考え方、発想		
【学習の目標】	ポジティブ心理学の本質について理解する。		
【学習の内容】	ポジティブ心理学とはなにか、その歴史と内容および、「心理療法への応用」について学ぶ。		
【キーワード】	ポジティブ心理学、フロー理論、ポジティブ感情、幸福感と生きがい、社会的スキル、人間の長所、短所。		
【学習の課題】	上記の学習の目標・内容・キーワードをふまえて、とくにポジティブ心理学の内容と、ポジティブ心理学の発想をどのようにして心理療法へ応用できるかを習得する。		
【参考文献】	島井哲志編 「ポジティブ心理学」 ナカニシヤ出版 2006年		
【学習する上での留意点】	とくにポジティブ心理学の「心理療法への応用」について理解すること。		

1. 科目名 (単位数)	精神医学特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP9217
2. 授業担当教員	花村 誠一		
4. 授業形態	講義およびディスカッション、精神科病院での実習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	2・3年次		
7. 講義概要	<p>精神医学において鍵概念とされてきた「了解」について、現代の分析哲学を手掛かりに再吟味してみる。Wittgenstein と Kripke を参照しながら、「規則 (rule) に従う」さいのパラドックスという難問をとりあげる。これによって、いまや治療技法のグローバル・スタンダードとなった観のある認知行動療法をさらに研ぎ澄ますことができる。Maturana と Valera のオートポイエシス理論を手掛かりに、ある種の構成主義的精神療法への転回を導く。教員自身の臨床経験から、ある一卵性のふたごの統合失調症不完全一致例が詳細に提示される。統合失調症の症状と経過に関して一定の理解に達したうえで、ボン大学基底症状評価尺度を用いるアセスメント実習に入ってもらおう。院生は本科目の履修を介して、統合失調症の「1. 5 次予防」という、すぐれて現代的な実践課題に取り組むことができる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神病の「了解不可能性テーゼ」に抵触することなく、その精神療法の可能性を模索するには、後期 Wittgenstein による「意味の理論」を参照することが役立つ。</li> <li>2) Kripke のパラドックスについて、けっして哲学の領域に生じただけの対岸の火車として看過することなく、心理療法の基盤を揺るがず事態としてリアルに受け止めてみる。</li> <li>3) 認知行動療法の基礎概念について、本科目がクローズアップする理論心理学的バイアスのもと、改めて再吟味してみると、必ずやいくつかの本質的な問題点が浮上する。</li> <li>4) Glaserfeld のラディカル構成主義、Mahoney の構成主義的心理療法について学習し、3) で浮上した問題点を解決すべく、みずから独自の考察を試みてみる。</li> <li>5) 統合失調症の精神病理学へのオートポイエシス理論の導入について、教員自身による論文を参照しながら、遠慮することなく教員に向けて質問を発してみる。</li> <li>6) 精神病理学の本場ドイツで開発されたボン大学基底症状評価尺度を使用してみることによって、統合失調症の早期徴候に関する臨床的理解を深める。</li> <li>7) 臨床心理士として、21 世紀のメンタルヘルスの最大の課題である精神疾患の 1. 5 次予防に取り組むべく、みずからの視野をポリディシプリナリ (領域横断的) に拡大してみる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマ、及び「15 通信教育課程 課題」を参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 高橋三郎、大野裕監訳『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引』、医学書院、東京、2014 年 J. H. ライトほか著 (大野裕訳)『認知行動療法トレーニングブック DVD 付』、医学書院、東京、2007 年 トーマス・マクグラシャンほか著 (水野雅文監訳)『サイコシス・リスク・シンドローム—精神病の早期診断実践ハンドブック』、医学書院、東京、2011 年</p> <p>【参考文献】 安藤寿康著『心はどのように遺伝するか—双生児が語る新しい遺伝観』、ブルーバックス B-1306、講談社、2000 年 D. ブルア著 (戸田山和久訳)『ウィトゲンシュタイン：知識の社会理論』、勁草書房、東京、1988 年 J. プーヴレス著 (中川雄一訳)『ウィトゲンシュタインからフロイトへ—哲学・神話・疑似科学』、国文社、東京、1997 年 E. フラー・トリリーほか著 (岡崎裕士ほか訳)『ふたごが語る精神病のルーツ』、紀伊国屋書店、東京、1998 年 P. French et. al. (松本和記ほか訳)『統合失調症の早期発見と認知療法—発症リスクの高い状態への治療的アプローチ』、星和書店、東京、2006 年 深尾憲二郎：自己・意図・意識—ベンジャミン・リベットの实验と理論をめぐって。中村雄二郎・木村敏監修『講座/生命、2004・vol.7』、pp238-268、河合文化教育研究所、名古屋、2004 年 E. v. グレーザーズフェルド著 (橋本涉訳)『ラディカル構成主義』、NTT 出版、東京、2010 年 花村誠一：分裂病の精神病理学とオートポイエシス。河本英夫、L. チオンピ、花村誠一、W. ブランケンブルク著、複雑系の科学と現代思想『精神医学』、pp173-239、青土社、東京、1998。 花村誠一：システム論的転回。融道男ほか編、臨床精神医学講座 24、『精神医学研究方法』、pp407-429、中山書店、東京、1999。 花村誠一：語りと強度—行為論的精神病理。加藤敏編、新世紀の精神科治療 7『語りと聴取』、pp78-99、中山書店、東京、2003。 花村誠一：生の強度 (IOL) について。日本芸術療法学会誌 37 : 7-24, 2008。 花村誠一：治療技法のシンセサイジング—情報学的転回。臨床精神病理 30 : 166-175, 2009。 花村誠一：思考障害のパズル—精神病理学から神経回路網へ。Schizophrenia Frontier 11 : 186-194, 2010。 花村誠一：治療的行為としての強度的内省—超準モデルの要請。臨床精神病理 32 : 141-156, 2011。 花村誠一：哲学と精神医学。神庭重信ほか編、専門医のための精神科リユミエール 30『精神医学の思想』、pp258-271、中山書店、東京、2012。 D.G. キングドンほか著 (原田誠一訳)『統合失調症の認知行動療法』、日本評論社、東京、2002 年 S. A. クリプキ著 (黒崎宏訳)『ウィトゲンシュタインのパラドックス—規則・私的言語・他人の心』、産業図書、東京、1983 年</p>		

	<p>A. クークラ著 (羽生義正編訳) 『理論心理学の方法—論理・哲学的アプローチ』、北大路書房、京都、2005 年          G. レイコフ著 (池上嘉彦ほか訳) 『認知意味論—言語から見た人間の心』、紀伊国屋書店、東京、1993 年          B. リベット著 (下條信輔訳) 『マインド・タイム—脳と意識の時間』、岩波書店、2005 年          前野隆司著 『脳はなぜ「心」を作ったのか—「私」の謎を解く受動意識仮説』、筑摩書房、東京、2004 年          C. マッギン著 (植木哲也ほか訳) 『ウィトゲンシュタインの言語論—クリプキに抗して』、劉草書房、東京、1990 年          C. マッギン著 (石川幹人ほか訳) 『意識の「神秘」は解明できるか』、青土社、東京、2001 年          C. マッギン著 (五十嵐靖博ほか訳) 『マインドサイト—イメージ・夢・妄想』、青土社、東京、2006 年          D. マクゴリーほか編著 (鹿島晴雄監修、水野雅文ほか監訳) 『精神疾患の早期発見・早期治療』、金剛出版、東京、2001 年          M. J. マホーニー著 (根建金男ほか訳) 『認知行動療法と構成主義心理療法—理論・研究そして実践』金剛出版、東京、2008 年          T. ノーレットランダーシュ著 (柴田裕之訳) 『ユーザーイリュージョン—意識という幻想』、紀伊国屋書店、東京、2002 年          野矢茂樹著 『哲学・航海日誌』、春秋社、東京、1999 年          W. オドノヒューほか著 (佐久間徹監訳) 『スキナーの心理学—応用行動分析 (ABA) の誕生』、二瓶社、大阪、2005 年          Gross, G., Huber, G., Klosterkötter, M., Linz, M. : BSABS. Bonn Scale for the Assessment of Basic Symptoms. 1st English Edition. Shaker Verlag, Aachen, 2008.          Harre, R. and Tissaw, M.: Wittgenstein and Psychology : a practical guide. Aschgate, 2005.          Klosterkötter, J., Helmich, M., Steinmeyer, E. M. et. al. : Diagnosing schizophrenia in the initial prodromal phase. Arch. Gen. Psychiatry 58 : 158-164, 2001.          Sadler, J. Z., Wiggins, O. P., Schwartz, M. A.(ed.) : Philosophical Perspective on Psychiatric Diagnostic Classification. Johns Hopkins University Press, 1994.          Schultze-Lutter, F., Addington, J., Ruhrmann, S., Klosterkötter, J. : Schizophrenia Proneness Instrument. Adult version (SPI-A). Giovanni Fioriti Editore, Roma, 2007.          Wittgenstein, L. : Philosophical Investigations. The German Text, with a Revised English Translation. 50th Anniversary Commemorative Edition. Blackwell, 2005.</p>
<p>11. 成績評価の方法</p>	<p>1. 成績の評価は、講義でのディスカッション参加の度合、レポート (小論文)、単位認定試験の結果によって決められる。          2. 院生としての基準に満たない論文は、基準を満たすまで書き直しが求められる。          (評価点)          A : 100~90、B+ : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、F : 59 点以下</p>
<p>12. 受講生へのメッセージ</p>	<p>脱施設化をなし遂げた欧米諸国を中心に、統合失調症の臨床研究の関心が初回エピソードやいわゆる前駆段階へとシフトしつつある。つまり、精神病が顕在化してブレイクダウンする以前に、なんらかの援助・治療の手をさしのべるべく、早期発見と早期介入が目指されるようになった。2013 年に刊行される DSM-5 の新機軸の 1 つとして「サイコース・リスク・シンドローム」があげられる。臨床心理士はこの分野において、ある意味では精神科医以上に重要な役割を演じうる職種である。</p> <p>本科目の後半のメニューの 1 つに、ボン大学基底症状評価尺度 (東京医科歯科大学ヴァージョン) の実習がある。このアセスメント・ツールは、統合失調症の早期発見に非常によく役立つことがすでに実証されている。社会福祉専攻 (博士後期) における精神保健福祉論特殊講義では、このツールのリハビリテーション実践への応用が注目されている。ここでは、統合失調症の「1. 5 次予防」に役立てることになるが、作成者 Klosterkoetter からも、目下、この分野のほうに力を入れている。</p> <p>精神医学は、おそらく、臨床心理学の関連学問として、その筆頭にあげられてしかるべきものであろう。教員は精神医学の基礎学問たる精神病理学を専攻しながら、すでに 40 年近く、精神科臨床にたずさわってきた。臨床における主要な守備範囲は、統合失調症およびその類縁疾患であり、本シラバスでもこれを中心に置いている。本科目は博士後期の院生に向けて開講されるものであり、通学過程、通信過程を問わず、受講生のニーズに応じて、内容をフレキシブルに変更していくことを考慮する。</p>
<p>13. オフィスアワー</p>	<p>別途通知する。</p>
<p>14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】</p>	
<p>1~3. テーマ</p>	<p>Wittgenstein と心理学との遭遇</p>
<p>【学習の目標】          Wittgenstein の全集には『心理学の哲学』としてまとめられた一冊がある。その透徹した思索は精神医学の基礎論にも資するところが大きい。彼のヴェルツブルク・コネクションに目を止めながら、後期の「言語ゲーム」論にアプローチしてみる。</p> <p>【学習の内容】          1) 実験心理学の祖 Wundt とその弟子 Külpe の率いるヴェルツブルク学派とのあいだに「無心像思考論争」が生じた。          2) 後者の「意識態」(Bewußtseinslage, 略して Bsl) は、意味の把握あるいは志向という作用の先駆をなすものである。          3) Wittgenstein は両陣営とも斥けて、言語の使用 (Gebrauch, use) を優先させるという画期的アイデアへと至った。</p> <p>【キーワード】          心像から社会的相互作用へ、外面化の規則 (rule of externalization)、ヴェルツブルク・コネクション、無心像思考論争 (imageless thought controversy)、言語ゲームと生活の流れ、有限主義、訓練、家族的類似 (family resemblance)、基準 (criteria) と徴候 (symptom)、必要 (needs)、心的状態の社会的構成、私的言語 (private language)、感覚日記、Skinner への収斂、Freud 学説に</p>	



	<p>対する態度「重要だが誤っている」</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中期の『青色本』で展開された基準と徴候の区別に照らして、精神科における診断について考えてみよう。</li> <li>2) Wittgenstein は精神分析について「重要だが誤っている」と断じたが、なぜそのように言わねばならなかったのだろうか。</li> <li>3) 後期の「言語ゲーム」論はどこで行動主義と一線を画するか、Skinner の構想と並べて検討してみよう。</li> </ol> <p>【参考文献】</p> <p>D.ブルア著（戸田山和久訳）『ウィトゲンシュタイン：知識の社会理論』、勁草書房、東京、1988 年</p> <p>花村誠一：哲学と精神医学．神庭重信ほか編，専門医のための精神科リュミエール 30『精神医学の思想』，pp258-271，中山書店，東京，2012.</p> <p>Harre, R. and Tisaw, M.: Wittgenstein and Psychology : a practical guide. Aschgate, 2005.</p> <p>W.オドノヒューほか著（佐久間徹監訳）『スキナーの心理学—応用行動分析（ABA）の誕生』、二瓶社、大阪、2005 年</p>
4～6. テーマ	<p>認知行動療法と規則のパラドックス</p> <p>【学習の目標】</p> <p>Beck らは、CBT における患者と治療者の関係を説明するために、協同的経験主義(collaborative empiricism)という用語を使用した。ここでは、治療関係についてのこういう表象を Kripke のいう「ウィトゲンシュタインのパラドックス」に照らして吟味してみる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) CBT はコモンセンス（常識）に基づくアプローチであり、その点で、うつ病者にアフィニティーがあると言える。</li> <li>2) 統合失調症の患者には、特有な「コモンセンスの精神病理」があり、原法通りに行えば必ずみが生じるだろう。</li> <li>3) 生活技能訓練（SST）は杓子常軌に行われると、社会適応のための（動物の）「調教」のようなものになり下がる。</li> </ol> <p>【キーワード】</p> <p>Ellis の論理療法：不合理な信念、Beck の認知療法：スキーマ・推論の誤り・自動思考、Bandura の社会学習理論：セルフエフィカシー（自己効力感）、社会生活技能訓練（SST）、『哲学探求』第 201 節、懐疑のパラドックス (skeptical paradox)、グルー、クワス算、懐疑的解決 (skeptical solution)、真理条件 (truth condition)、主張可能性条件 (assertability condition) ないし正当化条件 (justification condition)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「規則は行為の仕方を決定できない。なぜなら、いかなる行為の仕方もその規則と一致させられるから」。</li> <li>2) このパラドックスは、集合論のパラドックスのように避けなければならないものではなく、懐疑的解決で対応できる。</li> <li>3) CBT の統合失調症への拡張は、こういう「存在の裂け目」をくぐることで、初めて構想可能になるだろう。</li> </ol> <p>【参考文献】</p> <p>D.G.キングドンほか著（原田誠一訳）『統合失調症の認知行動療法』、日本評論社、東京、2002 年</p> <p>S. A. クリプキ著（黒崎宏訳）『ウィトゲンシュタインのパラドックス—規則・私的言語・他人の心』、産業図書、東京、1983 年</p> <p>G.レイコフ著（池上嘉彦ほか訳）『認知意味論—言語から見た人間の心』、紀伊国屋書店、東京、1993 年</p> <p>C.マッギン著（植木哲ほか訳）『ウィトゲンシュタインの言語論—クリプキに抗して』、勁草書房、東京、1990 年</p> <p>M. J.マハーニー著（根建金男ほか訳）『認知行動療法と構成主義心理療法—理論・研究そして実践』金剛出版、東京、2008 年</p> <p>J. H.ライトほか著（大野裕訳）『認知行動療法トレーニングブック DVD 付』、医学書院、東京、2007 年</p>
7～9. テーマ	<p>「ふたごの共同体」と統合失調症</p> <p>【学習の目標】</p> <p>教員自身による症例報告「一卵性のふたごの統合失調症（不完全）不一致例 A 子と B 子」が提示される（資料配布）。ふたごの共同体の命運をたどりながら、統合失調症の症状と経過について、分析のオーダーを一段上げて理解することが求められる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Kripke によれば、ある人が共同体に受け入れられていないならば、その人は「規則に従っていない」とみなされる。</li> <li>2) 統合失調症の本態を「規則に従っていない」状態とみなすならば、「アスペクト盲」の想定によって形式的に分析可能になる。</li> <li>3) このアイデアは、Wittgenstein が『探求』第二部で展開したアスペクト論を規則論的に読みかえたものである（野矢）。</li> </ol> <p>【キーワード】</p> <p>人間行動遺伝学 (human behavioral genetics)、ポリジーンモデル、発端者と対偶者、Wittgenstein の「アスペクト盲」、Kripke の「規則のパラドックス」、野矢茂樹、根源的規約主義 (radical conventionalism)、破綻局面、妄想性人物誤認症候群 (delusional misidentification syndrome)、出来事、新宮一成、虚像転移、治療上のターニング・ポイント、仮性回復、強度 (intensity)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) DSM 診断システムに照らして、発端者 B 子は典型的な統合失調症、対偶者 A 子は短期精神病性障害と診断できる。</li> <li>2) 両者の病像の違いを、後者が関係妄想（ドイツ語圏でいう自我障害）を欠いている点に求めることができる。</li> <li>3) 治療上のターニング・ポイントは、「規則に従う」と「強度に従う」とが不可分になる瞬間であると把握できる。</li> </ol> <p>【参考文献】</p> <p>安藤寿康著『心はどのように遺伝するか—双生児が語る新しい遺伝観』、ブルーバックス B-1306、講談社、2000 年</p> <p>E.フラー・トリールほか著（岡崎裕土ほか訳）『ふたごが語る精神のルーツ』、紀伊国屋書店、東京、1998 年</p> <p>花村誠一：語りと強度—行為論的精神病理．加藤敏編，新世紀の精神科治療 7『語りと聴取』，pp78-99，中山書店，東京，2003.</p> <p>花村誠一：治療技法のシンセサイジング—情報学的転回．臨床精神病理 30：166-175，2009.</p> <p>花村誠一：治療的行為としての強度的内省—超準モデルの要請．臨床精神病理 32：141-156，2011.</p> <p>野矢茂樹著『哲学・航海日誌』、春秋社、東京、1999 年</p> <p>Wittgenstein, L. : Philosophical Investigations. The German Text, with a Revised English Translation. 50th Anniversary Commemorative Edition. Blackwell, 2005.</p>

10～12.テーマ	ボン大学基底症状評価尺度の実習
<p><b>【学習の目標】</b>  英米圏では、統合失調症に対して「陽性症状評価尺度」(SAPS)および「陰性症状評価尺度」(SANS)が用いられる。ここでは、患者に対する教員との同席面接を介して、ドイツで開発されたボン大学基底症状評価尺度(BSABS)を使用してみる。</p> <p><b>【学習の内容】</b>  1) 基底症状は、患者にとって自己知覚可能(self-perceivable)な欠損で、半構造化面接によって評価される。  2) 英米圏における陽性症状/陰性症状のディコトミーとは異なった構成概念に基づく症状評価尺度である。  3) KlosterkötterらはICD-10のF-0、4-6に属する患者群のデータを分析し、5つのクラスターに分けた。</p> <p><b>【キーワード】</b>  クラスター1:思考・言語・知覚・運動の障害(21項目)、クラスター2:身体感覚の障害(13項目)、クラスター3:通常のスレスに対する耐性の低下(5項目)、クラスター4:情動ないし感情の障害(7項目)、クラスター5:情動反応性の増大(6項目)、感度(sensitivity)、特異度(specificity)、陽性反応適中度(positive predictive value:PPV)、受診者動作特性曲線(receiver operating characteristic curve, ROC曲線)</p> <p><b>【学習の課題】</b>  1) Klosterkötterらによるケルン早期発見(Cologne Early Recognition:CER)プロジェクトの成果を検討する。  2) ROC曲線から、クラスター1(認知機能障害に相当する)の反応正確適中度が他に比べて有意に高いことがわかる。  3) 感度0.25以上、陽性反応適中度(PPV)0.70以上の10項目は、統合失調症の早期徴候として重要であると言える。</p> <p><b>【参考文献】</b>  Gross, G., Huber, G., Klosterkötter, M., Linz, M.: BSABS. Bonn Scale for the Assessment of Basic Symptoms. 1st English Edition. Shaker Verlag, Aachen, 2008.  花村誠一:思考障害のパズル—精神病理学から神経回路網へ。Schizophrenia Frontier11:186-194, 2010.  Klosterkötter, J., Helmich, M., Steinmeyer, E. M. et. al.: Diagnosing schizophrenia in the initial prodromal phase. Arch. Gen. Psychiatry 58:158-164, 2001.</p>	
13～15.テーマ	統合失調症の早期発見と早期介入
<p><b>【学習の目標】</b>  欧米はもとより、本邦においても、統合失調症の早期発見や早期介入(1.5次予防)を目指す時代が到来した。精神的なブレイク・ダウン以前、すなわち、顕在発症する以前の介入戦略であり、臨床心理士にとって重要な活動分野になるだろう。</p> <p><b>【学習の内容】</b>  1) そのもその起こりは「精神病未治療期間」(DUP)が長いほど予後が悪くなるという実証のデータであった。  2) ニューロイメージングにより、初回エピソード患者における新皮質を中心とした進行性脳体積減少が明らかになった。  3) これによって、DUPを短縮し、早期介入を行うことの科学的根拠が確立され、「予防」戦略に拍車がかかった。  4) 2013年に刊行予定のDSM-5に向けて、Attenuated Psychosis Syndromeという新たな概念が提案されている。</p> <p><b>【キーワード】</b>  精神病未治療期間(DUP:Duration of Untreated Psychosis)、発症危険精神状態(ARMS:At Risk Mental State)、超ハイリスク(ultra high risk:UHR)群、豪州PACE(Personal Assessment and Crisis Evaluation)クリニック、CAARMS(Comprehensive Assessment of At Risk Mental State:発症危険精神状態包括評価)、脆弱性(vulnerability)、弱い精神病(Attenuated Psychosis)、短期限定間歇性精神病状態(Brief Limited Intermittent Psychotic Symptoms;BLIPS)、サイコーシス・リスク・シンドローム</p> <p><b>【学習の課題】</b>  1) 米国においてこの分野を牽引しているMcGlashanらの「サイコーシス・リスク・シンドローム」を検討する。  2) Klosterkötterを中心とするThe European Prediction of Psychosis Study(EPOS)の成果と比較してみる。  3) ボン大学基底症状評価尺度(BSABS)には、英米の尺度にない「身体感覚の障害」が存在することに注目されたい。</p> <p><b>【参考文献】</b>  P. French et. al. (松本和記ほか訳)『統合失調症の早期発見と認知療法—発症リスクの高い状態への治療的アプローチ』、星和書店、東京、2006年  D.マクゴリーほか編著(鹿島晴雄監修、水野雅文ほか監訳)『精神疾患の早期発見・早期治療』、金剛出版、東京、2001年  トーマス・マクグラシアンほか著(水野雅文監訳)『サイコーシス・リスク・シンドローム—精神病の早期診断実践ハンドブック』、医学書院、東京、2011年  Schultze-Lutter, F., Addington, J., Ruhrmann, S., Klosterkötter, J.: Schizophrenia Proneness Instrument. Adult version (SPI-A). Giovanni Fioriti Editore, Roma, 2007.</p>	

1. 科目名 (単位数)	認知心理学特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP8220
2. 授業担当教員	太田 信夫		
4. 授業形態	講義、講読演習、実験実習を、適宜行う	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	Dynamic Cognitive Processes (Eds. N.Ohta, C.M.MacLeod, B.Uttl, 2005, Springer)をテキストとし、受講生は認知心理学の小実験を計画から実施、レポート作成まで行う。本書は、国際的に現在アクティブに認知研究をしている数十名の研究者が、各自の最新の研究を紹介し、理論的な考察を展開している。受講生は、本書を参考にして、各自の興味のある研究を取り上げ、実験を遂行する。本授業では、認知心理学の国際的な研究動向の把握、認知心理学実験の遂行能力と認知心理学的思考能力の向上を主な目的とする。		
8. 学習目標	テキストを読み、内容をよく理解する。 実験を行い、レポートにまとめる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	テキストの内容について、レジュメを作成すること。 自分の行った実験について、目的、方法、結果、考察に関してレポートにまとめること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 Dynamic Cognitive Processes (Eds. N.Ohta, C.M.MacLeod, B.Uttl, 2005, Springer)の必要部分をコピーしたものを、教材として用意する (テキスト購入の必要はない)		
11. 成績評価の方法	テキストのレジュメ、実験レポート、出席状況について、評価をする。 レジュメ—30%、レポート—60%、出席—10%		
12. 受講生への メッセージ	心理学研究の難しさ、面白さ、楽しさを実感してほしい。		
13. オフィスアワー	授業終了後、3 時間程度		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	Chapter 11 Conscious and Unconscious Processes in Hypermnesia(pp.249-271)－ 1		
【学習の目標】	本論文の概略をつかむ。		
【学習の内容】	Introduction		
【学習の課題】	Introduction をまとめる。		
2. テーマ	Chapter 11 Conscious and Unconscious Processes in Hypermnesia(pp.249-271)－ 2		
【学習の目標】	レミニッセンスの概念を説明できる。		
【学習の内容】	Reminiscence is the Product of Conscious Searches		
【学習の課題】	学習内容をまとめる。		
3. テーマ	Chapter 11 Conscious and Unconscious Processes in Hypermnesia(pp.249-271)－ 3		
【学習の目標】	レミニッセンスと意識の関係について説明できる。		
【学習の内容】	Reminiscence Does Not require Conscious Searches		
【学習の課題】	学習内容をまとめる。		
4. テーマ	Chapter 11 Conscious and Unconscious Processes in Hypermnesia(pp.249-271)－ 4		
【学習の目標】	本論文の結論について説明できる。		
【学習の内容】	Conclusion		
【学習の課題】	Conclusion をまとめ、コメントをする。		
5. テーマ	Chapter 9 Encoding Deselection and Long-Term Memory(pp.191-217)－ 1		
【学習の目標】	本論文の概略をつかむ。		
【学習の内容】	Introduction		
【学習の課題】	Introduction をまとめる。		
6. テーマ	Chapter 9 Encoding Deselection and Long-Term Memory(pp.191-217)－ 2		
【学習の目標】	記憶と注意分割の関係について説明できる。		
【学習の内容】	Varieties of Memory and division of attention		
【学習の課題】	学習内容をまとめる。		
7. テーマ	Chapter 9 Encoding Deselection and Long-Term Memory(pp.191-217)－ 3		
【学習の目標】	非選択と意識の関係について説明できる。		
【学習の内容】	Consequences of deselection		
【学習の課題】	学習内容をまとめる。		
8. テーマ	Chapter 9 Encoding Deselection and Long-Term Memory(pp.191-217)－ 4		
【学習の目標】	非選択 効果について説明できる。		

【学習の内容】	deselection effects
【学習の課題】	学習内容をまとめる。
9 . テーマ	実験実習 (1)
【学習の目標】	問題の所在を明確にする。
【学習の内容】	目的と仮説を立てる。
【学習の課題】	目的と仮説についてまとめる。
10 . テーマ	実験実習 (2)
【学習の目標】	方法を明確にする、
【学習の内容】	適切の方法について学ぶ。
【学習の課題】	方法についてまとめる。
11 . テーマ	実験実習 (3)
【学習の目標】	実験計画を精練する。
【学習の内容】	実験計画の立て方について学ぶ。
【学習の課題】	実験計画についてまとめる。
12 . テーマ	実験実習 (4)
【学習の目標】	実験の準備ができる。
【学習の内容】	実験材料、実験装置などの作成について学ぶ。
【学習の課題】	実験の準備についてまとめる。
13 . テーマ	実験実習 (5)
【学習の目標】	実験の実施ができる。
【学習の内容】	実験の実施
【学習の課題】	実験結果とその分析についてまとめる。
14 . テーマ	実験実習 (6)
【学習の目標】	パワーポイントで発表できる。
【学習の内容】	上手は発表の仕方について学ぶ。
【学習の課題】	発表とそれに対する質問についてまとめる。
15 . テーマ	実験実習 (7)
【学習の目標】	投稿論文形式で、研究論文を作成できる。
【学習の内容】	論文の書き方について学ぶ。
【学習の課題】	論文を完成させる。

1. 科目名 (単位数)	発達障害特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP7227
2. 授業担当教員	鶴 光代		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	発達障害について、各障害の特性や配慮事項を理解し、臨床現場で行われている実践から、発達障害児・者への支援について知見を深める。 本講義では、発達障害という問題を持つ人が社会でよりよく生きていくための様々な支援法について研究する。		
8. 学習目標	1. 発達障害に区分される各障害の特徴について理解する。 2. 発達障害児・者の支援に必要とされる専門的知識について学ぶ。 4. 発達障害に関する研究法を習得する。 5. 各現場での支援法を使えるようになる。 6. 博士論文作成に向けて各自の関心のある論文を読み、発表して、意見交換を行う。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	支援方法の研究論文を読み、レポートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> 主として、学術雑誌等をもたらる。 Society for research in Child Development 機関誌”Child development” 日本発達障害学会機関誌「発達障害研究」 日本発達心理学会機関誌「発達心理学研究」 日本特殊教育学会機関誌「特殊教育研究」 日本臨床動作学会機関誌「臨床動作学研究」 日本リハビリテーション心理学会機関誌「リハビリテーション心理学研究」 <b>【参考書】</b> 日本児童青年精神医学会機関誌「児童青年精神医学とその近接領域」		
11. 成績評価の方法	出席及び授業への参加度 50% レポート 50%		
12. 受講生への メッセージ	発達障害の問題は、基礎的研究から支援法まで幅広いが、知識を学ぶだけでなく、博士論文執筆に繋がる講義として取り組んでいきたい。各内容について、予習復習とともに、積極的な討議への参加を期待する。		
13. オフィスアワー	別途、通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	発達障害の概念、分類		
<b>【学習の目標】</b>	様々な発達障害の概念、分類、診断基準について理解する。		
<b>【学習の内容】</b>	各発達障害の特徴について、DSM-5を参考にして学ぶ。		
<b>【キーワード】</b>	自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害、発達協調運動障害		
<b>【学習の課題】</b>	各発達障害の特徴をまとめる。		
<b>【参考文献】</b>	DSM-5		
<b>【学習する上での留意点】</b>	DSM-5の簡易版を購入して学習しておく。		
2. テーマ	発達支援の基本的視点		
<b>【学習の目標】</b>	発達支援の基本的な考えを学ぶ。		
<b>【学習の内容】</b>	発達支援に必要な発達心理学の概念や理論について学び、発達の視点について認識を深める。		
<b>【キーワード】</b>	包括的視点、発達の視点		
<b>【学習の課題】</b>	発達心理学の重要な理論についてまとめてから講義に臨む		
<b>【参考文献】</b>	その都度提示する。		
<b>【学習する上での留意点】</b>	発達心理学とのつながりを意識して講義に臨む。		
3~4. テーマ	発達支援における包括的アセスメント		
<b>【学習の目標】</b>	発達支援におけるアセスメントのあり方について学ぶ。		
<b>【学習の内容】</b>	実際のケースに基づいて、発達の視点に立ったアセスメントについて学習する。		
<b>【キーワード】</b>	包括的アセスメント、環境のアセスメント		
<b>【学習の課題】</b>	知能検査、発達検査など、子どもに対する検査について復習する。		
<b>【参考文献】</b>	その都度提示する。		
<b>【学習する上での留意点】</b>	子どもに対する心理検査について、理解した上で講義に臨む。		
5. テーマ	自閉症スペクトラム障害におけるエビデンスに基づいた支援方法		
<b>【学習の目標】</b>	自閉症スペクトラム障害における発達支援の概要をつかむ。		
<b>【学習の内容】</b>	自閉症スペクトラム障害に関する発達支援の精査論文を購読して、自閉症スペクトラム障害に対する支援方法を学ぶ。		

	<p>【キーワード】 自閉症スペクトラム障害、エビデンスベースド</p> <p>【学習の課題】 自閉症スペクトラム障害について理解する。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自閉症スペクトラム障害の基本的な理論について復習し、講義に臨む。</p>
6. テーマ	発達論に立つ発達障害への支援
	<p>【学習の目標】 発達心理学の理論に立つ発達障害への支援方法を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 発達心理学の知見に基づく自閉症スペクトラム障害に対する支援方法の実際と、最近の研究成果を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 太田理論、間主観性</p> <p>【学習の課題】 各技法の特徴と適用についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの発達について復習する。特に、言語発達や社会的発達について復習する。</p>
7～8. テーマ	行動論に立つ発達障害の支援
	<p>【学習の目標】 応用行動分析等、行動論に立つ発達障害の支援方法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 応用行動分析やそれから発展した技法について、文献をもとに学習する。</p> <p>【キーワード】 応用行動分析、機会利用型指導法、ソーシャルスキル・トレーニング</p> <p>【学習の課題】 各技法の特徴と適用についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 学習心理学について復習する。</p>
9. テーマ	関係論に立つ発達障害の支援
	<p>【学習の目標】 精神力動論やアタッチメント理論にたつ自閉症スペクトラム障害への支援を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 精神力動論における自閉症スペクトラム障害のとらえ方やそれに基づく支援方法、また、アタッチメント理論に基づく支援方法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 カプセル化、自我機能、アタッチメント</p> <p>【学習の課題】 各技法の特徴と適用についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 精神分析の基本的な考え方を復習する。</p>
10～11. テーマ	臨床動作法による発達障害の支援
	<p>【学習の目標】 臨床動作法理論に立つ発達障害への支援を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 臨床動作法における障害のとらえ方やそれに基づく支援方法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 動作に見る発達障害、動作体験様式、体験様式の発達・変化</p> <p>【学習の課題】 技法の特徴と適用についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 臨床動作法の基本的な考え方を調べる。</p>
12～13. テーマ	青年期・成人期の発達障害の問題
	<p>【学習の目標】 青年期・成人期の発達障害について、小児とは異なる特性や問題点を明らかにする。</p> <p>【学習の内容】 この分野は最近注目されているため、各大学の学生相談室等での取り組みや成人の当事者の手記を通して、青年期・成人期での困難について文献を通して、明らかにする。</p> <p>【キーワード】 当事者研究、生涯にわたる支援</p> <p>【学習の課題】 青年期・成人期の発達障害者の困難点についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 当事者の手記を読んでみる。</p>
14～15. テーマ	発達障害児・者の親支援・コミュニティ支援
	<p>【学習の目標】 環境からの取り組みとして、発達障害をめぐる親支援やコミュニティ支援の問題を考える。</p> <p>【学習の内容】 親支援として注目されているペアレント・トレーニングを学ぶ。環境調節として、コミュニティからの支援として何ができるのかを討議する。</p> <p>【キーワード】 ペアレント・トレーニング、アドボカシー、エンパワーメント</p> <p>【学習の課題】 親支援・コミュニティ支援としてできることをまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の経験を議論において出しあい、社会の中で障害児・者を支援することを考える。</p>

1. 科目名 (単位数)	臨床心理査定特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP7256
2. 授業担当教員	織田 正美		
4. 授業形態	演習と実習を中心に行う	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	臨床心理査定を中心になっている心理検査法の信頼性、妥当性、実用性について研究する。また、心理検査の標準化について研究し、既存のテストの信頼性、妥当性、実用性について比較検討する。なお、知能・人格・適性検査の実習を行う。		
8. 学習目標	1.臨床心理査定を大学及び大学院で指導できる教員は数少ない。そこで大学及び大学院で 1 年間指導できるよう実力をつける。 2.各種心理検査の標準化ができるように実力をつける。 3.各種心理検査を実習し、診断・相談できるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1.各種心理検査を実際に行うことができるよう各回責任をもって指導する。 2.心理検査を作成の具体的な手順についての、レポートを提出する。 3.既存の心理検査を 3 種類比較・検討してレポートとして提出する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 松原達哉『心理テスト法入門』日本文化化学社 【参考文献】 赤木愛知・池田央監訳 1993『教育・心理検査法のスタンダード』図書文化 (入手不可)		
11. 成績評価の方法	成績は発表の内容とレポートと出席点を総合して評価する		
12. 受講生への メッセージ	1.大学・大学院で臨床心理検査の講義・演習を受け持つ指導できるように実力をつける。 2.新しい心理検査を標準化できるようになる。 3.心理検査についての倫理を学習する。		
13. オフィスアワー	火曜日 9:00~12:00		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	全体の説明 (臨床査定法とポジティブ心理学)		
2. テーマ	臨床心理査定について定義、面接法、観察法、調査法について研究する		
3. テーマ	望ましい心理検査の条件 (1) 妥当性 (2) 信頼性 (3) 実用性を研究する		
4. テーマ	主な心理検査について (1) 妥当性 (2) 信頼性 (3) 実用性を研究する		
【学習の目標】	臨床心理査定法の本質について理解する。		
【学習の内容】	臨床心理査定法の歴史、種類、個別の内容について。「概容と要点」を学ぶ。		
【キーワード】	心理査定法、心理検査法の客観性、信頼性、妥当性、実用性、フィードバック、倫理、自己・他者評価に伴う各種のバイアス		
【学習の課題】	上記の学習内容をふまえて臨床心理査定法の「概容・要点」を習得する。		
【参考文献】	松原達哉「心理テスト法入門」日本文化化学社 赤木愛知・池田央監訳 1993「教育・心理検査法のスタンダード」図書文化 (入手不可)		
【学習する上での留意点】	査定法の「客観性」を理解し、主観的な自己評価や他者評価の際のバイアス理解 (誤った判断) をなくすようにすること。		
5~6. テーマ	心理検査の標準化手順について研究する		
7~11. テーマ	各種の臨床検査の実習と検討する		
【学習の目標】	臨床心理査定法の本質について理解する。		
【学習の内容】	臨床心理査定法の標準化・作成方法。		
【キーワード】	標準化、客観性、信頼性、妥当性		
【学習の課題】	上記学習の内容をふまえて、臨床心理査定法のあり方を習得する。		
【参考文献】	松原達哉「心理テスト法入門」日本文化化学社 赤木愛知・池田央監訳 1993「教育・心理検査法のスタンダード」図書文化 (入手不可)		
【学習する上での留意点】	とくに臨床心理査定法の「客観性」について理解する。		
12. テーマ	臨床査定結果のポジティブなフィードバック		
13. テーマ	心理査定法の臨床場面における利用法		
14. テーマ	心理査定と倫理		
15. テーマ	全体のまとめ		
【学習の目標】	臨床心理査定法の具体的な方法を実際に体験学習 (実習) する。		
【学習の内容】	既存の性格 (人格) 検査法、発達検査法、適性検査法など、また質問紙法、投影法の相違点などについて、学習し実際に授業中に実習し、客観的な自己評価 (診断)、他者評価 (診断) の方法を学ぶ。何種類かの代表的な心理検査 (診断法) を実施する。また、他者への実施結果のフィードバックのしかたの留意点、心理査定 (診断) 法の倫理上の問題についても学習し、臨床場面での応用に役立てる。		
【キーワード】	心理検査 (診断法)、性格 (人格)、知能、発達、適性、質問紙、フィードバック投影法、倫理		
【学習の課題】	実際に査定 (診断) 法を体験学習することにより、臨床心理査定法の重要なポイントはなにかを学び、様々な領域の臨床現場の実践に役立てる。		
【参考文献】	松原達哉 心理テスト法入門 日本文化化学社 赤木愛知・池田央監訳 1993 教育・心理検査法のスタンダード 図書文化 (入手不可)		
【学習する上での留意点】	とくに臨床現場における心理査定法の実践に役立てること。		